



2026年度 3学年通信

友よ 我等は

甲府東高等学校
2026. 4. 24(金)
第2号

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

～ 己の殻を打ち破れ ～ 「啐啄同時」

3学年主任 古屋 彰士

鳥の雛は卵の中で自分のくちばしを使い、殻の内側をコツコツとつつきながら外に出ようとします。この行動を「啐（そつ）」と言います。一方、親鳥は雛のつつく音や位置を感知し、外側から殻をつついて支援します。これを「啄（たく）」と言います。雛の内側からの「啐」と親鳥の外側からの「啄」が同時に行われることで、殻を破ることができます。このことは「啐啄同時」と呼ばれ、弟子と師匠の呼吸やタイミングがぴったり合うことに例えられます。弟子が学ぶ準備が整った瞬間に師が適切な指導や助言を行うことで、学びが最大化されるという意味です。皆さんとはそんな関係を築いていきたいと思っています。

「殻」の定義は「失敗や変化への恐れ」「周囲の目や期待に対するプレッシャー」「自信の弱さ」「自分はこの程度だという思い込み」「慣れや安心」「偏見」などさまざま考えられるかもしれませんが、“自分を守ってくれているもの”であると同時に“可能性を狭くしてしまっているもの”であるという共通項を持っているように思います。先月、三条市立大学のシャハリアル学長が殻を打ち破って外に出ることの大切さとそのためのヒントをお話してくださいましたね。思い出してください。殻の内側には、“安定、維持、満足”しかありません。

「己の殻を打ち破る」ためには、殻の内側で十分に育った雛が外に出よう、外に出たいという思いを抱き、雛自身が日々殻をつつき続けなければなりません。ただし、勉強だけしていればよい、というわけではありません。人間の豊かさとは、勉強+αの「+α」の部分で決まりますので。

結局、言いたいことは前号と同じ、「日々『淡々と』おいしいチャーシュー麺を作ろう！」です。

5月の主な行事予定

- 1日(金) ④⑤⑥第1回生徒総会・壮行会、第1回バイク通学者説明会(放課後)
- 13日(水) 高校総体(一般生徒:応援)～15日(金)
(本校:男子バレーボール競技会場)
- 14日(木) ①～③特編授業 15日(金) ▲カセット
- 18日(月) キャリアオリエンテーション、
第1回定期試験発刊時間割発表、学習強化週間
- 19日(火) 尿検査1次
- 20日(水) 登校時マナーアップ運動
- 22日(金) ⑤交通講話
- 25日(月) 第1回定期試験～28日(木)
- 28日(木) ④ネット・スマホ安全講話、進研共通テスト模試(+31日(土))
※学園祭準備期間(試験終了後～6/16)
- 29日(金) 生徒休業日



「進路選択は慎重に」

1組担任 丸尾 晃司

私が教職を志したのは、中学生の頃でした。サッカーに携わる仕事をしたいと考え、当時の部活動の顧問への憧れもあったため、顧問としてサッカーに携わることができる教師になりたいと思いました。現実にはサッカー部のない高校へ配属されるなどうまくはいかぬこともありましたが、今は社会人チームで自身がサッカーをすることでサッカー欲は満たされており、また担任として生徒たちの成長や進路実現のサポートをできることにやりがいを感じ、充実した生活を送ることができています。

さて私は、政治経済の教師として採用されましたが、高校のときは体育教師になりたいと思っていました。体を動かすことが大好きで、憧れだった先生も体育教師だったため、教師になるなら体育と決めていました。高校2年生の頃、担任の先生と面談した際に、体育教師を目指したいことを伝えたところ、「体育の先生はね、競技で実績がないとなれないんだよ」と言われました。私の所属していたサッカー部は地区大会を突破し、県大会には出場していたものの、上位に入るのは夢のまた夢といった実力でした。ここで私の夢は方向転換を迫られました。しかたがないので、得意科目であった日本史の教員になると決め、志望大学も変更することになりました。しかし、教員になって10年以上が経ちますが、日本史を教えたのは最初の1年間だけです。人生はどうなるかわからないものです。

タイトルにある「進路選択は慎重に」という話に戻ります。進路選択をするにあたって、家族や友人、学校や塾の先生などが皆さんのためにたくさんの助言をくれると思います。助言を聞きすぎて逆に迷ってしまうことがあるかもしれませんが、有益な情報を手に入れられるチャンスなので大切にしたいです。ただし、最後に決めるのは自分であり、その責任はすべて自分のものになります。私は担任からの助言を受けて進路変更をしましたが、その助言には誤った情報が含まれていたことであとで気づくことになります。体育教師になるために競技実績はあった方が望ましいのかもしれませんが、実績がなくても目指すことはできるのです。私の母校は県外にあり、高校時代の記憶が欠如しているため、担任の先生の名前も思い出せません。なぜ誤った内容の助言をしたか確認する術はありません。悔いはありますが、過去に戻ることはできないので私は受け入れています。担任の先生への恨みはありません。先生からの情報を鵜呑みにし、自分で調べようとしなかった自分に大きな責任があると感じています。この経験は教師になった私にとっては、誤った情報を生徒に伝えて、生徒の進路実現の道を閉ざしてしまうことがないようにしようという戒めになっており、役立っています。

3年生になった皆さんは、これから進路についてさらに真剣に向き合っていくことと思います。前述した通り、様々な人からもらった助言を受け入れつつも、自分で決めるという強い意志も持ってほしいです。資格を必要とする場合は別ですが、どの大学、どの学部に行くかによって決まる進路は暫定的なもので、大学進学後に新たな道を切り開くこともできると思います。しかし、高校卒業後の進路選択は一生で最も大きな選択といえるでしょう。皆さんの慎重な進路選択を応援し、正しい情報を提供してサポートしていくので、1年間よろしくお願ひします。

